

難民や中国帰国者が伝えた 平和への思い

～日本語学習者と地域ボランティアの協働で紡いだDST～

2016年

入場無料
申込不要

10月27日(木) 14:40-16:10

会場: 横浜国立大学 教育文化ホール 中集会室

川崎市幸区の日本語学習者が、自分の経験や思いを写真等と組み合わせた★デジタルストーリーテリング(DST)を作って、平和への思いを語りました。

本セミナーでは、戦争を潜り抜けてきた二人の日本語学習者のDST作品を見て、直接、語り合い、日本に暮らす様々な人々の思い、とくに実人生から絞り出すような平和への願いを受け止め、共に暮らす市民としての自分たちの在り方、行動の仕方を考えていきたいと思っています。

発表者: 池田恵子氏 (幸区多文化共生推進事業実行委員会・委員長)

20年ほど前から地域で外国人の日本語学習や生活支援に関わり、多文化共生のまちづくりのために活動している。地域コミュニティ作りにDSTを活用して、今年で3年目になる。

DST制作者: **猿田 勝久氏** (中国帰国者)

終戦2ヶ月前に、新潟港より満州に向かう船に乗るが、3隻のうち2隻は沈没。大陸にたどり着いた後、両親が没し中国人養父に育てられる。文化大革命を経験し、1985年に帰国。波乱万丈の73年を7分間のDSTに凝縮し、中国の人々への感謝と平和への思いを語る。



DST制作者: **鶴川裕子氏** (ベトナム難民)

ベトナム脱出後、太平洋を漂流し、救助されて来日。難民定住センターを経て、神奈川に移り住むが、夫と共に職場や隣人の難民に対する偏見や無理解に苦しむ。ベトナムから呼び寄せた子供もいじめにあうが、日本人支援者や家族の協力で苦難を乗り越えてきた、その人生を平和への願いと共に語る。

★DST(デジタル・ストーリーテリング)とは?

アメリカで生まれた市民のメディア実践活動で、教育や医療・福祉、地域のコミュニティづくりに利用され、世界中に広まりつつある。自分の声でナレーションを入れた数分のフォトビデオ。

なお、このDST制作活動は、文化庁の平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を、認定NPO教育活動総合サポートセンターが委託され、実施したものです。

司会: 樋口万喜子(横浜国立大学 国際戦略推進機構 非常勤講師)

対象: 本学学生、教職員、一般の方

お問合せ: 横浜国立大学国際戦略推進機構 日本語教育部 講師 半沢千絵美

E-mail: hanzawa-chiemi-mz@ynu.ac.jp